

Neuroanatomical substrate of chronic psychosis in epilepsy: an MRI study

平河, 則明

<https://hdl.handle.net/2324/2348706>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (医学) , 課程博士
バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



(別紙様式 2)

氏 名	平河 則明				
論 文 名	Neuroanatomical substrate of chronic psychosis in epilepsy: an MRI study				
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	飛松 省三	
	副 査	九州大学	教授	神野 尚三	
	副 査	九州大学	教授	吉良 潤一	

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

背景：統合失調症と慢性発作間欠期てんかん精神病（EPS）は、異なる病態生理を持つと考えられている。しかしながら、EPS に関する構造 MRI の研究は、これまでのところ少ない。この研究は、EPS の神経学的基盤を調査するために行った。

方法： EPS 患者 14 人、それに厳格にマッチさせたてんかんのみの患者 14 人を、T1 強調画像で分析した。VBM (voxel-based morphometric) の手法を用いて全脳の体積比較を行った。

結果： VBM 手法により、EPS 群で左の中心後回と左の縁上回で有意な灰白質の体積減少が示された（調整後の p 値、即ち FDR 補正 $q=0.029$; 319 ボクセル）。臨床病像との関連に関しては、精神病症状と、左の中心後回と左の縁上回の灰白質との間に、有意な相関関係はなかった。

結論： VBM 手法により、左の中心後回と左の縁上回の灰白質の体積減少が、EPS の病因として重要である可能性が示唆された。

以上の成績はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。

なお、この論文については共著者多数であるが、予備調査の結果、本人が主導的役割を果たしていることを確認した。